

2022 AC

1st. Celebrate Sukkot

原語で味わう創世記第1章

集中特別講座 10/9~16

15日(朝) No.12

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

①ヨハネの福音書5章39節

あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。

その聖書は、わたしについて証ししているものです。

【新改訳2017】

②イザヤ書 46章10節

わたしは後のことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、『わたしの計画は成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる』と言う。

※聖書のシナリオライターは時間と空間に支配されない永遠の神です。シナリオが歴史の中に突入する時、その初めと終わりが規定されることは当然のことです。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

【新改訳2017】

③イザヤ書34章16節

【主】の書物を調べて読め。
これらのもののうち、どれも失われていない。
それぞれ自分の伴侶を欠くものはない。
それは、主の口がこれを命じ、
主の御霊がこれらを集めたからである。

※「自分の伴侶」にたとえられているのは、神のみことばの証言が必ず伴侶のように置かれているということの意味します。例えば、「千年」「十四万四千人」など。

「創世記第一章」を学ぶ上で大切な視点

●創世記1章に関する注解書は多く書かれていますが、その多くが宇宙(地球)の始まりと考えています。しかしアシュレークラスでは、創世記1章を「**神の永遠のご計画の全貌が啓示されている章**」という視点で学んで行きます。

【新改訳2017】ヘブル人への手紙 4章12節

神のことは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、**たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。**

●私たちが持っている「理解の型紙」(この世の知恵、常識、教理)という眼鏡を外して、霊を働かせることが不可欠です(Ⅱコリ5:16, 3:6)。私たちの霊の目が開かれるように「シエーム・イエシュア」と呼びつつ、学んで行きたいと思います。

1. 「人を創造した」①

【新改訳2017】創世記1章26～28節

26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

27 神は人をご自身のかたちとして創造された。
神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

28 神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。

「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。

海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

●27～28節は第六日のハイライトです。前回学んだ26節と比べると、微妙な違いがあります。

1. 「人を創造した」②

●この違いに気づくことはとても難しいのです。なぜなら、創世記は始まりの書だと考えているからです。神は永遠の方であり、時間と空間に支配されていません。創世記1章は聖書の始まりの書であると同時に、終わりの書でもあるということです。つまり「神のご計画の全貌の概要」が啓示されているのです。

●26節と27～28節は、「最初のアダム」と「最後のアダムによって造られる新しい人」が隣り合わせに表記されています。このような表記はゼカリヤ書9章9節と10節にもあります。そこにはイエシュアの初臨と再臨が何の説明もなく置かれています。初臨と再臨の間はすでに二千年以上経過しています。

9節「子ろばに乗ってエルサレムに入場されるイエシュア」
10節「この地上において戦いをやめさせ、平和を実現する王なるメシアとしてのイエシュア」

●前回で話したことですが、「第一の人」に包括される人は「造られます」が、「第二の人」に包括される人は「創造される」のです。



1. 「人を創造した」 ③

【新改訳2017】

神は人をご自身のかたちとして**創造された**。
神のかたちとして人を**創造し**、
男と女に彼らを**創造された**。

エローヒーム	ベツエレム	ベツアルモー	ハーアーダーム	エツト	エローヒーム	ヴァイヴラー
אלהים	בְּצַלְמֵם	בְּצַלְמוֹ	אֶתְהֶאָדָם	וְ	אלהים	וַיִּבְרָא
神の	かたちに	ご自身の かたちに	その人	を	神は	創造した (継続ヴァーヴ)

26節にあった
「似姿」がな
くなっている

オーターム	バーラー	ウーネケーヴァー	ザーハール	オートー	バーラー
אֶתָם	בְּרָא	וַיִּבְרָא	זָכָר	אֶתָו	בְּרָא
彼らを	(神は)創造した	女	と 男	彼を	(神は)創造した

1. 「人を創造した」④

【新改訳2017】創世記1章27節

神は人をご自身のかたちとして**創造された**。

神のかたちとして人を**創造し**、男と女に彼らを**創造された**。

●26節の「(人を)造ろう」の場合、「アーサー」(אֲשֶׁר)の未完了形が使われていました。しかし27節の「創造した」は「バーラー」(בָּרָא)という完了形が**三度**も使われています。1節の「創造した」は「預言的完了形」です。27節も同様に、神は人(原文は冠詞付きの「その人」)をご自身のかたちとして「創造された」ことを意味します。ご自身のかたちとしての「人」とは、「最初のアダム」ではなく「最後のアダム」であるキリストにある「人」(原文は「その人」の人称代名詞「彼」)です。つまり「その人」はキリストのうちに取り込まれて、死からよみがえったキリストのうちにある「新しい人」として創造されるのです。これが27節の「人」の意味です。21節にある生き物にもバーラー(בָּרָא)が使われています。

1. 「人を創造した」 ⑤

●26節では「人」(アーダム)を「造ろう」とありました。「造ろう」の「アーサー」(אֲשֶׁר)は、神(われわれ)が人を、神のかたちと似姿に御子を原型として造ろうとされたのです。「かたち」とは「外なる人」(表現する人)、「似姿」とは「内なる人」(同じ務めを担う人)のことです。以下は26節です。

キドウムーテーヌー

ベツアルメーヌー

アーダム

ナアセ

エローヒーム

ヨーメル ヴァ

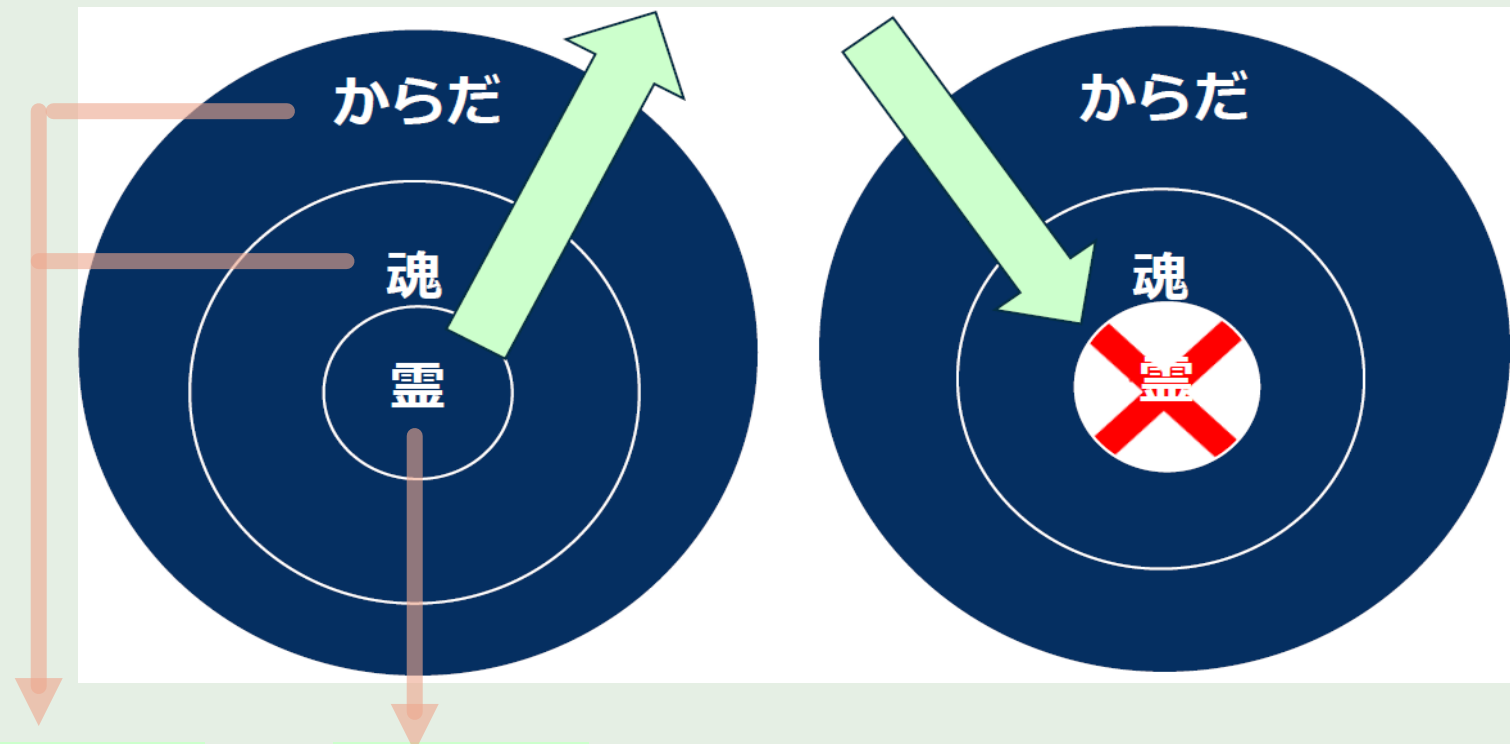
וַיֹּאמֶר אֱלֹהִים נַעֲשֶׂה אָדָם בְּצַלְמֵנוּ כִּדְמוּתֵנוּ
わたしたちの わたしたちの 人を わたしたちは 神は 言われた また
似姿のように かたちに 造ろう

- 質問です。神が造ろうと話し合ったことは実際になされたのでしょうか。
- なぜ27節に「わたしたちの似姿に」という部分がないのでしょうか。

1. 「人を創造した」 ⑥

●人は「心とからだ」の二つの部分ではなく「**霊**と**たましい**と**からだ**」の三つの部分から成っています。

I テサロニケ5章23節
ヘブル4章12節



「外なる人」 「内なる人」

- 「たましい」は「知性・感情・意志」の部分で「人格」と考えられています。
- 矢印の方向は指令系統を意味します。「罪を犯す」とは、指令系統の中枢が「霊」ではなく「たましい」に置かれることを意味します。つまり、たましいの部分が「善と悪のすべて」を決定するものとなることを意味するのです。

1. 「人を創造した」 ⑦

【新改訳2017】創世記2章7節

神である【主】は、その大地のちりて人を形造り、その鼻にいのちの息を吹き込まれた。それで人は生きるものとなった。

●この箇所は、最初の間がどのようにして造られたかを記しています。

(1) 「大地のちりて人を形造り(「ヤーツアル」 ָצַרְ)」

(2) 「その鼻にいのちの息(「ニシュマツト・ハツイーム」 ַיִּם הַחַיִּים וְנִשְׁמַתוֹ) を吹き込まれた」

(3) 「それで人は生きるもの(「ネフェシュ・ハツヤー」 ַיִּם הַחַיִּים וְנִשְׁמַתוֹ)となった」

●ここで注目すべきことは「いのちの息」の「いのち」が複数形だということです。「霊」と「たましい」と「からだ」に、それぞれいのち(「生きる、ハツヤー」の名詞形)が与えられたことを意味します。人間だけに「霊」のいのちが与えられています。サタンの戦略は霊からの指令を阻止することにあります。つまり霊によってではなく、たましいによる判断をさせることにあるのです。

1. 「人を創造した」 ⑧

●神はサタンによる「最初のアダム」(第一の人)ののろいを終結させるために、「最後のアダム」(第二の人=イエシュア)を遣わしてくださいました。イエシュアはご自身のうちに私たちを取り込んで、私たちとともに死に、ともに葬られ、ともによみがえって、「いのちを与える御霊」によって新しく生きる者としてくださいました。これはすでに**包括的**になされた神の創造の御業です。人はキリストのうちにあることで「新しく造られた者」(「ベリーアー・ハダーシャー」
הַבְּרִיאָה הַחֲדָשָׁה)となったのです(Ⅱコリント5:17)。それは信仰によってのみ、**個別的**に私たちのものとなります。

●パウロは「割礼を受けているか受けていないかは、大事なことはありません。**大事なのは新しい創造です**」(ガラテヤ6:15)と述べています。「新しい創造」とは、人が霊によって生きる者とされた(回復された)ことを意味します。そのことによって、「霊とたましい」の分かれ目さえも見分けるようになるのです。霊によって生きることは主のかたち(ツエレム)と似姿(デムート)の回復を意味しますが、「すでに」と「いまだ」の緊張関係の中にあります。

1. 「人を創造した」 ⑨

●27節の「**その人**」を「神ご自身のかたち」とするために、御子イエシュアは人となられ(受肉)、受洗によって人を取り込み、人とともに死に、人とともに復活することで「いのちを与える御霊」となって人の霊を生かし、人の霊の中に入られました。そのことによって、神は新しい人(神の作品・神の傑作)を**創造された**のです。その意味で、26節の「人」(רֹאשִׁית)は「旧創造」、27節の「その人」(רֹאשִׁיתָא)は「キリストによる**新創造**」だということが、冠詞の有無と使われている動詞、つまり「アーサー」(אֲשֶׁר)と「バーラー」(בָּרָא)で判別することができるのです。

●さらに神は、「**御子**」と御子のかたち(表現)としての「**その人**」の関係を「**男と女**」の関係として創造したことが記されています。一連の贖いの出来事を通して、神は「その人」をキリストのうちにある者としてくださった後で、「キリスト」と「その人」の関係を「**男と女**」の関係に創造されます。この関係性は「新しい創造」の奥義です。その関係性の奥義はエックレーシアの「かしらとからだ」「花婿と花嫁」「ぶどうの木と枝」に表されています。

2. 「人を男と女に創造した」 ①

●人(「ハーアーダーム」 אָדָם)が、ここでは「男」を意味する「ザーハール」(אָרֶץ)と「女」を意味する「ネケーヴァー」(אִשָּׁה)とに創造されています。それぞれ子孫を造っていくための性としての男性と女性、雄と雌という意味でもあります。「ザーハール」(אָרֶץ)の語源は「ザーハル」(אָרֶץ)で、「心に留められている、覚えられている」という意味です。「永遠に記念されるべき存在」であり、それが指し示すのはイエシュアご自身です。

【新改訳2017】 I コリント人への手紙11章23～25節

23 ・ ・ 主イエスは渡される夜、パンを取り、24 感謝の祈りをささげた後それを裂き、こう言われました。「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」25 食事の後、同じように杯を取って言われました。「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」

2. 「人を男と女に創造した」 ②

- 「わたしを覚えるために」 (וְיִזְכְּרוּ) とは「わたしを記念として」とも訳せます。「記念とする」とは、イエシュアがなされたすべてのことを味わうとともに、それを享受することを意味するのです。それによって私たちが新しく造られたことを意識するためです。
- 「女」を意味する「ネケーヴァー」 (נְקֵיבָה) の語源「ナーカヴ」 (נָקַב) には「突き通す、冒涇する」という意味があり、これは「最後のアダム」にした行為と関係があります。イスラエルの民はメシアとして神から遣わされた「最後のアダム」を冒涇し、殺したのです。しかし「最後のアダム」が復活することで、女である「教会」が誕生し、さらに「イスラエルの残りの者」が神に立ち返ってメシア王国の中に入ることができ、「星の数ほどの子孫が生まれる」という神の約束が実現します。そして地を支配する者となるのです。

3. 「男と女を祝福した神」 ①

【新改訳2017】創世記1章28節

神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せられた。

「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。

海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

●26節にも「神は仰せられた。『さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。』」とあります。しかし、そこにはなかったことばが28節にはあります。それは「**神は彼らを祝福された**」ということばです。それは「**彼ら**」に対して語られたものです。その「**彼ら**」とは「**男と女**」です。しかしこれは生物学的な「男と女」ではなく、キリスト(メシア)とイスラエルの残りの者、あるいは教会のことです。この関係性が「神と人が共に住む家」において重要です。生物学的な「男と女」は、このことを啓示するたとえなのです。コロサイ書1章16節参照。

3. 「男と女を祝福した神」 ②

●メシア王国においては、教会に属する者は御霊のからだになっていきますが、「イスラエルの残りの者」はそのままのからだで入っていくので、「生めよ。増えよ。地に満ちよ」という神の命令を果たすことができるのです。しかし最終的な「新しいエルサレム」においては、男と女の区別なく、すべてが「神のしもべ」となります。

●男は「種」(「ゼラ」^{זֶרַע})を持つ存在であることが重要です。また種を有する男は女の存在がなければ、「生めよ、増えよ、地に満ちよ」という神の命令を実現することはできません。Iテモテ2章15節の「女は、・・子を産むことによって救われます」とは、キリスト(男)とイスラエル、および教会(女)の関係を意味しています。ちなみに、女の語源「ナーカヴ」(^{נָקָוָה})には、神のご計画を担う者として、神が「指名する」という意味もあります。

3. 「男と女を祝福した神」 ③

● 「御子とその人」が「男と女」に創造されたのは、一体となるためです。それは「知る、知り合う」(「ヤーダ」^{יָדָעַ})という関係性であり、その一体(「エハード」^{אֶחָד})性のオリジナルは三一の神のうちに秘められています。「男と女」の一体性は、メシアであるイエシュアとイスラエル、およびエックレーシアの関係として現わされます。

● イスラエルもエックレーシアも、イエシュアのみことばの種によって子孫を生むという使命が達成されるように計画されています。「人をわれわれのかたちとして」造ろうという神のことばの中に、「永遠の愛によって知り合う、という交わりの一体性」をキリストによって創造してくださったのです。これが神の祝福です。

4. 「王なる祭司としての主権」 ①

● 神はご自身のかたちに造られた人を「彼ら」と呼び、その彼らを祝福して「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ」、そして「生き物を支配せよ」と命じています。文字通りすべて命令形です(26節の「支配するようにしよう」は指示形)。

● 「従える」「支配する」ということは権威を持つことを意味します。権威とはそれを行使する領域(=王国)、すなわち「地」が必要です。つまり、アダムは神を代行する権威が与えられるということです。神のみこころは地を支配する人に権威を与えることによって、「茫漠として何もなかった地」(2節)を新しく創造することであったのです。その創造には贖いの概念が含まれていることは言うまでもありません。

● 神の二つの命令、すなわち「地を従えよ」と「生き物を支配せよ」は、換言するなら、地に対して「王なる祭司」としての永遠の務めをなすことを示唆しています。これが「デムート」の正体です。

4. 「王なる祭司としての主権」 ②

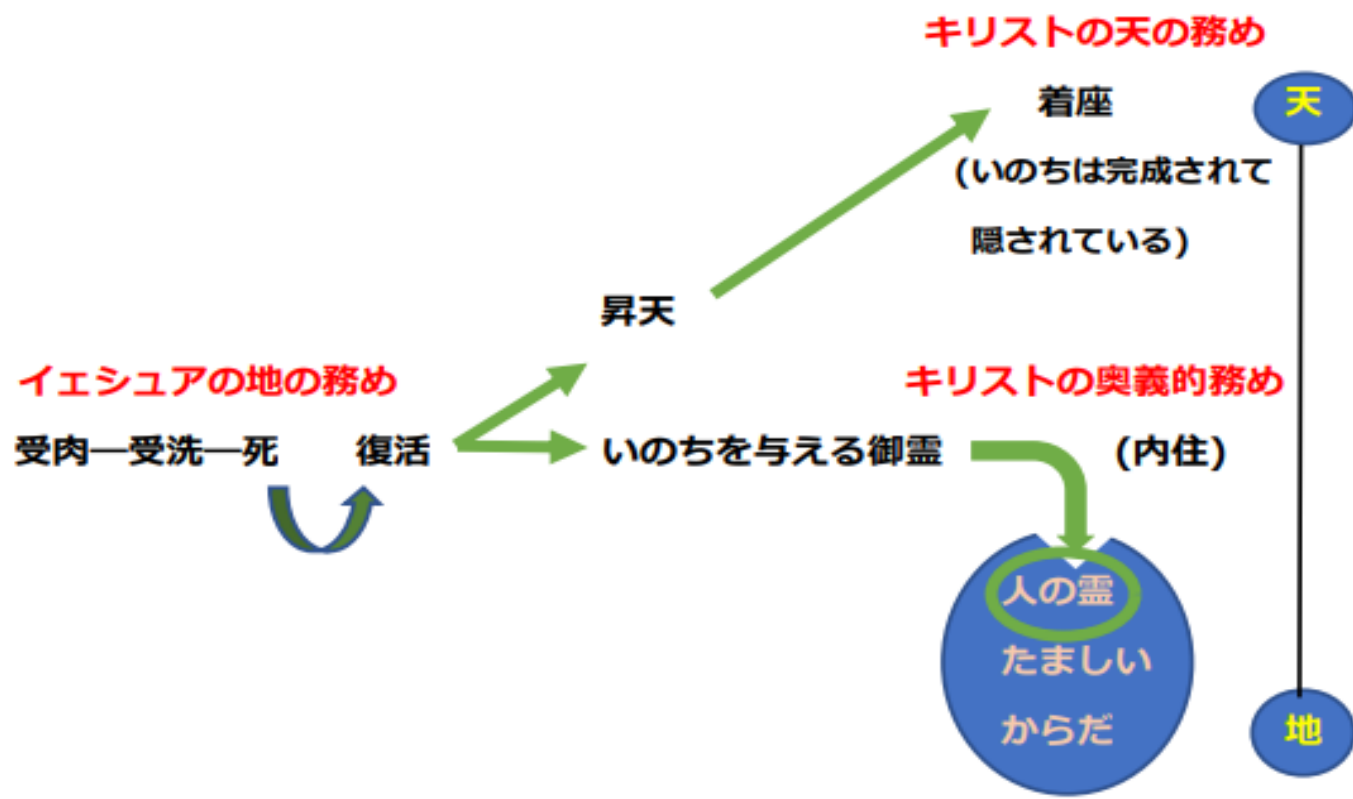
● イエシュアによる一連の贖いの事実は、人が地に対して「王なる祭司」としての務めをなすために不可欠なことであったと言えます。下の図をしっかりと心に留めるようにしましょう。天におられるキリストのとりなしと、地における人の霊の中にある御霊のとりなし、この二つのとりなしによって、天と地がつながるのです。

● そのとりなしの目的は、
① 私たちが御子のかたち(ツエレム)と同じ姿(デムート)に完全に造り変えられるため。

② 私たちが圧倒的な勝利者となるため。

※① ローマ8章26～29節

※② 同、34, 37節



今回のまとめ

●今回は人の創造について学びました。それを私たちの心(たましい)で理解しようとする、神の本意の的を外すことになります。神がしてくださった(してくださっている)ことを知るためには「霊」で理解することが不可欠なのです。

【新改訳2017】 Iコリント人への手紙2章9～11, 14節

- 9 ・ ・ 「目が見たことのないもの、耳が聞いたことのないもの、人の心に思い浮かんだことがないものを、神は、神を愛する者たちに備えてくださった」と書いてあるとおりでした。
- 10 それを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。
御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。
- 11 ・ ・ 神のことは、神の霊のほかにはだれも知りません。
- 14 御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。 ・ ・